

抗 Rad21 抗体、ウサギポリクローナル

70-105 50 µg

保存: 4℃または-20℃で送付、-20℃で保存。

免疫原: ヒトの Rad21 C 末端ペプチド(C-ATPGPRFHII)

形状: 1 mg/ml in PBS- with 50%グリセロール。フィルタ滅菌。アジドやキャリアーフリー

精製: ウサギ抗血清から免疫原ペプチドでアフィニティー精製した。

反応性: ヒト、マウス、ハムスター。他の種では試していない。

用途

1) ウェスタンブロット法 (1/2,000 希釈)

2) 免疫蛍光染色 (1/100~1/500 希釈) 他の用途は試していない。

背景: Rad21 (631 aa, 71 kDa) は細胞周期の間、染色体結合、DNA 修復、アポトーシス等に関与するコヒーシン複合体の切断可能なコンポーネントである。コヒーシン複合体は、DNA 複製後の姉妹染色分体の結合に必要である。コヒーシン複合体は、姉妹染色分体を巻きつける大きなタンパク質性の環状体を形成する。中期から後期への移行では、このタンパク質が Separase/ESPL1 によって切断され、クロマチンから解離し、姉妹染色分体が分離することができる。

タンパク質は含まない。

データリンク: UniProtKB/Swiss-Prot [060216](#) (RAD21_HUMAN)

参考文献: この抗体は、下記の論文に記載され、使用された。

Toyoda Y and Yanagida M. (2006) Coordinated Requirements of Human Topo II and Cohesin for Metaphase Centromere Alignment under Mad2-dependent Spindle Checkpoint Surveillance" *Mol. Biol. Cell.* 17: 2287-2302 (2006) PMID: [1446084](#) WB, IF

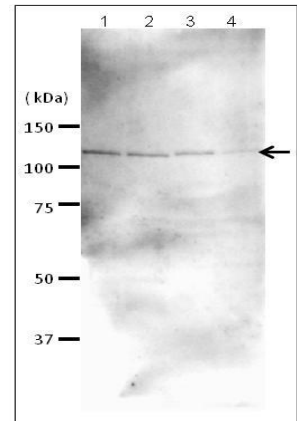


図 1. 本抗体を用いたウェスタンブロット法による全細胞抽出物中の Rad21 の検出。

抗Rad21抗体は、1/2,000の希釈で使用。Rad21タンパク質は、~120 kDaの位置に泳動される(文献参照)

細胞抽出液 10~20 µg タンパク質

1. HeLa (ヒト)
2. MCF-7 (ヒト)
3. NIH3T3 (マウス)
4. CHO (ハムスター)

ヘキストによる
DNA 染色

Rad21 は Rad21
抗体で免疫染色

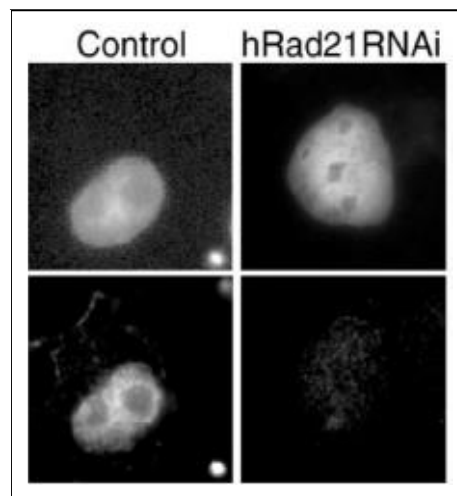


図 2. Rad21 タンパク質の免疫蛍光染色像。

抗体の特異性は、hRad21-特異的 RNAi を発現している細胞での Rad21 の消失によって確かめられた(右下図)。細胞はパラフォルムアルデヒドで固定する前に 0.5% Triton X-100 で処理した。